

甲陽園目神山町周辺の自然 緑の都市景観の視点から

大賀 二郎*

The Natural Surroundings of Koyoen Megamiyama Town Jiro OOGA

1 はじめに

西宮市甲陽園目神山町(こうようえんめがみやまちょう)(図1)は、緑と融合した都市の景観と住民が自主ルールを設けて緑化に取り組んでいることが評価されて、自由が丘地区(東京)吹屋地区(岡山)と共に、平成24年度の都市景観大賞「都市空間部門」(国土交通省)に選定された。

目神山の地名は昔、神呪寺(かんのうじ)を訪れた弘法大師がこの湧水を用い眼病を治したという故事による。筆者は目神山町の一隅に居住しているのので、その地区と周辺の自然の現状について報告する。

2 地理的・地質的環境

西宮市市街地北部に半球状の端正な佇まいを見せる山塊がある。

甲山である(写真1)。甲山(かぶとやま)は天保7年(1836年)発刊の摂津国細見大絵図(図2)にも兜山として、ほぼ今の地形の鳥瞰図が残っている。今も昔も西宮の象徴的な風景で、春夏秋冬、どこから見ても同じ姿を見せている。外国人からはビスマルクヒールと呼ばれ、かつての火山の面影を留めている。有史以降の噴火の事実はなく、2000万年前の活動期の残丘、いわば火山の化石とみられている。

目神山町は甲山の南部の丘陵に開発された阪急甲陽園駅のすぐ北にそそり立つ住宅地である。

目神山町の台地を構成する地質は、花崗岩と甲山安山岩でその上に大阪層群沖積層がおおっている。平均海拔は230m前後であり岩峰が各所に立ち上がっている。岩石には築城に用いられた跡が残るものもある。従って目神山町は岩山の街ということもできる。

なお周辺には、北山公園、北山池、北山緑化植物園、越木岩神社、甲山、北山貯水池(写真2)、甲山森林公園、甲山湿原、神呪寺、仁川自然植物園、石仏群、砂山などがある。

付記する事項として、目神山町南部の地中に東西には山陽新幹線六甲トンネルがある。また甲陽園の地層には東西に伸びる甲陽断層が走る。幸い1995年の阪神

淡路大震災時の被害は当目神山地区にはなかった。北山貯水池の水は堤防を越えることなく、地下に吸い込まれた。

3 生態系

(1) 植物相

昭和35年(1960年)頃からのこの地域は開発されたが、それまでの自然環境はおおむね次のようであった。全般的に花崗岩で成る南向き斜面であった。各所に岩峰があり、その下には溪谷があった。アカマツの疎林が展開し、下草としてネザサが茂っていた。アカマツの疎林には開発初期には稀にマツタケが確認されていた。原野や湿原もあった。目神山の底地は岩盤であり、各所に今も湧水がある。水源は甲山の伏流水である。開発前は鉱泉もあった。北山貯水池も甲山から伏流水が流入している。

1968年5月隣接する北山から出火した。広範囲にわたる山火事があり目神山西部のアカマツ林は焼失した。更に後年発生したマツノザイセンチュウによる被害で残樹も更に少なくなった。また山林の下草として勢力のあったネザサも寿命を終えて再生していない。

開発は林間住宅方式で進められた。自然環境保護が前提で地形の変更、樹木の伐採、更地、細分化は原則として避けられた。ブルドーザの入ったのは道路部分



図1 西宮市甲陽園目神山町周辺

のみである。目神山には現在も自然林、溪谷、岩山があり、その土壌は自然のまま残っている。山野草、地衣類、蘚苔類、微生物など意外な種が生存している可能性がある。

目神山町周辺の林野に自生する珍しい植物には次のものがある。コバノミツバツツジ、アセビ、ヤシヤブシ、ソヨゴ、ネズミサシ、ヒサカキ、ヒトツバ(写真5)、カキラン、モウセンゴケ、コモウセンゴケ、ヒカゲノカズラ、コシダ(写真4)、ウラジロ(写真6)、アミガサタケ(写真15)、セミタケ(写真8)、スッポントケ、ヒカリモ(写真9)、キツネノロウソク(写真10)などがある。

植栽されている珍しい草本には次のものがある。シラカバ、マロニエ(写真13)、カラマツ(写真12)、ダイオウマツ、ホオノキ(写真14)、ケヤキ、レッドウッド(写真11)、ミズバショウ(写真16)などがある。

阪神大震災時に神戸市域から逸出したタカサゴユリは住宅の石崖や岩場で風にそよいでいる。

この地は寒冷地のため民家の庭には加温式温室が見られる。観葉植物、多肉植物、洋蘭が栽培されている。英国風ガーデン、ハーブ園などのガーデニングが見られる。バショウ、熱帯性オオタニワタリが寒冷地の当地域でも屋外順応をしている。

(2) 動物相

小動物として次の種が確認されている。

哺乳類 イノシシ、タヌキ、モグラ、

鳥類 コゲラ、アオゲラ、モズ、ヒヨドリ、メジロ、ウグイス、キセキレイ、クロセキレイ、イカル、コジュケイ、シジュウガラ、ホオジロ、エナガ、カケス、キジバト、カワラヒワ、ミサゴ、ハシブトカラスなど。なお隣接する北山ダム付近はサシバ、マゴモなどの観察地点である。(兵庫県動物愛護協会より)

爬虫類 ヤマカガシ、マムシ、トカゲ、ヤモリ

両生類 モリアオガエル(写真7)、カジカガエル、ガマガエル、イモリ

魚類 カワムツ、ヨシノボリ

昆虫類 アゲハチョウ、モンキアゲハ、アカタテハ、ツマグロヒョウモン、ルリタテハ、ミスジチョウ、テングチョウ、オニヤンマ、ハグロトンボ、クワガタ、タマムシ、ハンミョウ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、クマゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ゲンジボタル(写真3)

小動物の最近の注目点としては次のことがあげられる。

(1) 往時の季節の風情を呼ぶキリギリス、スズムシ、コオロギなど直翅類の鳴声は絶えて久しい。参考のためこれまで目神山町で採集された昆虫標本を掲げる(写真17、18)。

(2) ここ2、3年渡ってくるツバメは極端に減少している。最盛年は電線に何10羽も並んでいることもあつ

た。2012年は甲陽園駅や洋菓子の「ツマガリ」店舗などで2、3羽の雛が見られた。

(3) 果樹の被害、小鳥の駆逐、ゴミ捨場荒しなどハシブトカラスの害が目だっている。

(4) スズメは殆ど見られなくなった。

(5) セミが全般に少なくなった。発生は年によって種類と個体数に偏りがある。2011年はクマゼミ、2012年はアブラゼミが異常発生した。ツクツクボウシは殆ど見られなかった。ミンミンゼミ、ハルゼミは殆ど姿を消した。ヒグラシは殆ど消えたが、まだ谷沿いの地域にいる。セミタケが発生している。

(6) 外来種アオマツムシは一時異常発生したが、現在は消滅している。

(7) 温暖化の影響か、ウスイロコノマチョウ、クロコノマチョウ、モンキアゲハ、アオスジアゲハがよく見られる。

(8) 湿地にヒメタイコウチの生存が確認されている。

(9) 水分川の溪谷はゲンジボタルの名所になっている。またこのあたりは夏ヒグラシの鳴声で暮れる。

(10) 北山ダムの入口や住宅の庭池には、モリアオガエルの産卵が見られる(写真7)。

おわりに

甲陽園目神山町は、緑の景観都市として岩上に開発された異色の景観と独自の住環境をもっている。また庭園には彫刻などもよく見られる光景である。将来この町の発展には次のような課題があるだろう。

(1) 緑、清浄な水そして大気を保護する。

(2) 自然環境悪化、過疎化、高齢化は現代社会の抱える問題である。限界社会化の傾向は当地域でも例外でない。自然と社会の共生、そして人と人の輪。あいさつ運動、学習会、趣味活動など特にこの地域で発達し始めた運動がある。

(3) 自然環境が劣化するなかで、目神山町にはまだ自然環境や生物資源が残っている。沈黙の林間にならないように生物が多様で彩りに満ちた環境でありたい。

(4) 眺望と四季の彩り、ゆたかな空間と時間をどのように生かすか。これからの可能性を秘めている。自治会館など建築、彫刻、絵画、音楽、植栽などの集いや緑の住環境としての更なる文化核も考えられる。

参考文献

図 摂津国細見大絵図1836

六甲社1959 六甲の自然 p 32-36 49-51 55-56 59-60

西宮市役所1979 西宮あれこれ p88-92 180-184

兵庫県生物学会1996 兵庫の自然探訪p160

兵庫県生物学会2001 兵庫の自然—環境と生き物の現状 p201—203

兵庫県生物学会2007 兵庫の自然今昔 p8-15

兵庫県動物愛護協会2012 北山貯水池周辺の鳥類

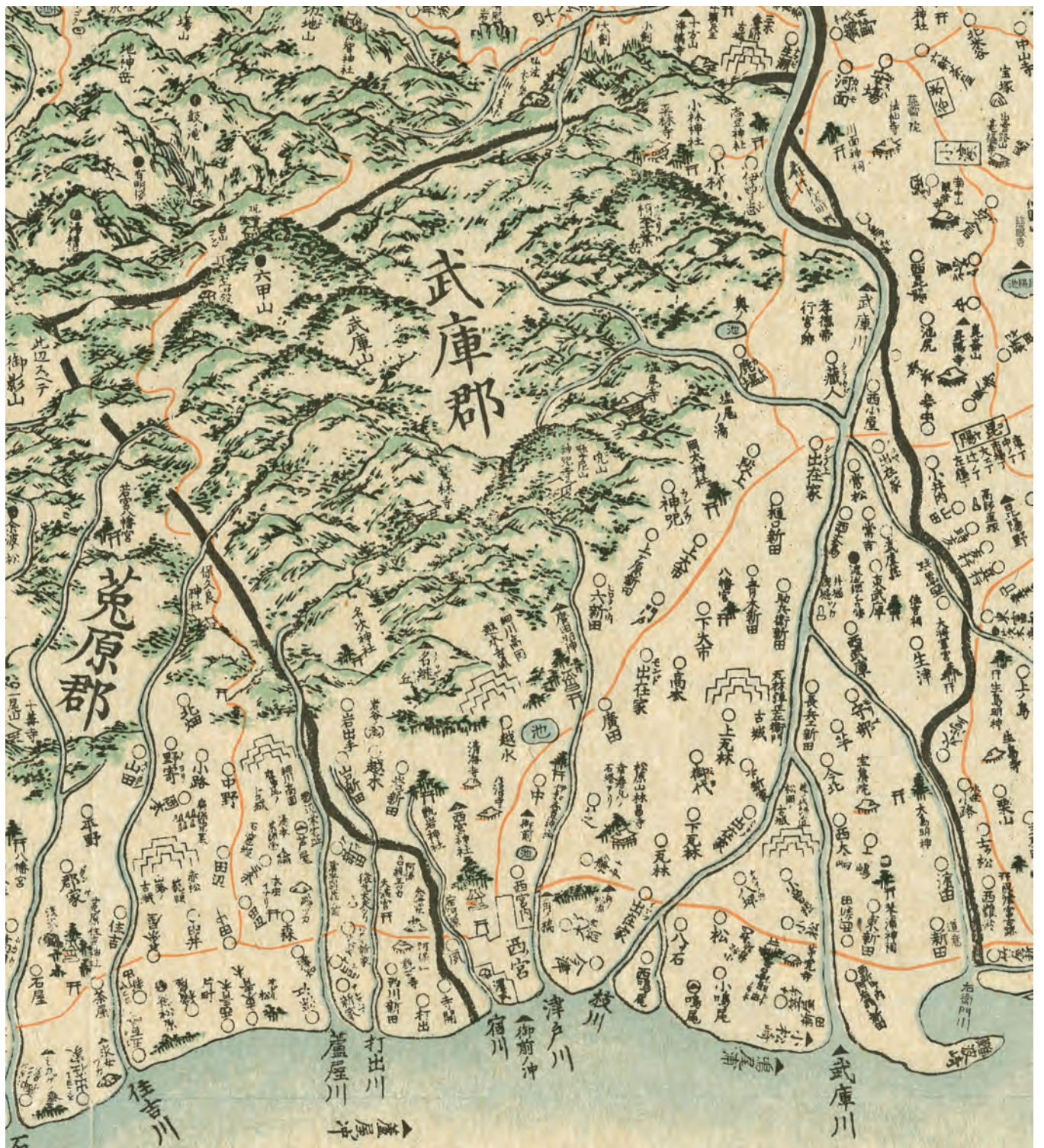


図2 摂津国細見大絵図



写真1 甲山(目神山からの眺望)



写真2 北山貯水池入り江付近

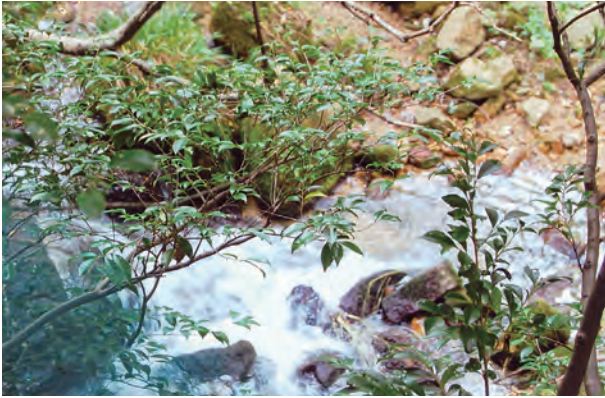


写真3 水分谷川(ホタルの名所)



写真4 コシダの群落



写真5 岩場のヒトツバ



写真6 ウラジロの群落



写真7 モリアオガエルの産卵



写真8 冬虫夏草(セミタケ)



写真9 ヒカリモの発生



写真10 キツネノロウソク



写真11 レッドウッド

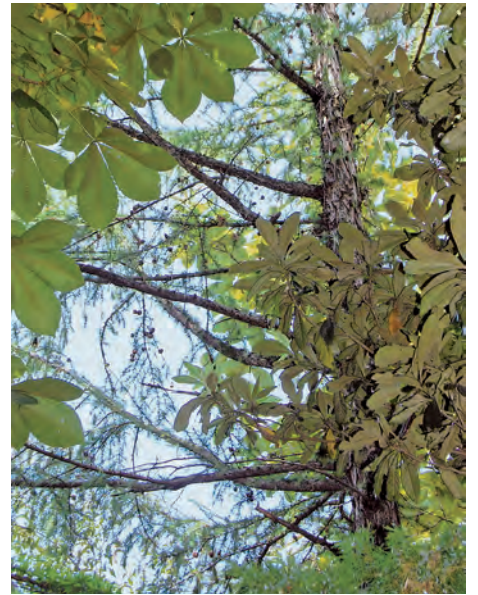


写真12 カラマツ



写真13 マロニエ ユリノキ

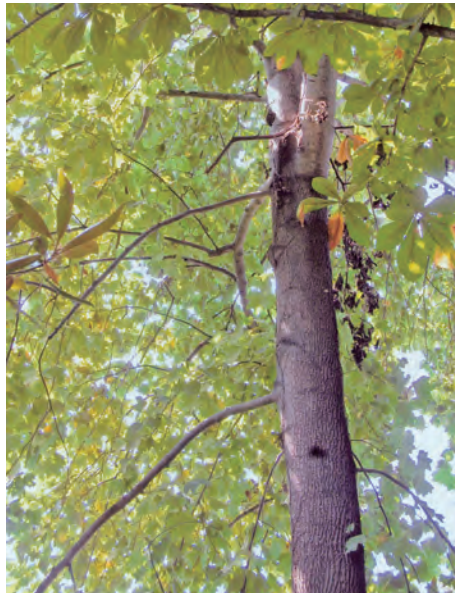


写真14 ホオノキ



写真15 アミガサタケ



写真17 ミズバショウ(栽培種)



写真17 目神山町昆虫標本 a



写真18 同 b